



旅するタチアオイ

6万年の歴史に感動

この季節、近くの道が一面に連載した記事路端には立葵(たちあ)を本にした「花おりおおい」が咲いている。りによると、立葵は我が家の庭の立葵は5カ所に生えているが、一番大きいのは2畝を越える。中心の茎には数えてみると30以上の花がついている。

それが、下からほぼ順番に咲いている。「下から」と敢えて書いたのは、一番上の花が咲き終わると梅雨が明けるといふ。

それが平安時代に唐葵として日本に入り、江戸時代あたりから立葵と呼ばれるようになったらしい。日本原産と思われるほどの長

い歴史を持つ帰化植物。徳川家の「三つ葉葵」など馴染みが深い。この花ひとつをとって、も、知れば知るほど自分が知らないことが多い。

人生を楽しんで生きるとは、これらと出会うことかもしれない。確かにこの世の中苦しいことが沢山ある。特に自分のように高齢になるとその傾向が強くなるのも事実だ。これを若いころには感じなかったことを十分にカバーしてくれる。「楽しみ」は待つものではなく自分で創り出すものだ。

私のそのひとつは、パウンドケーキを焼くことだ。体調不良が続き1年近くケーキ作りを休んでいたが、先日行われた教会のパーティーのために久しぶりに焼いた。

まずは雰囲気づくり



ケーキを焼いて前向きに生きる

からと、写真のようにケーキを焼く時の帽子をかぶることから始める。買い揃えたケーキ焼き道具を取り出し、小麦粉、玉子、中に入れる数種のドライフルーツを用意すると、体調不良がうそのように元氣になったように思える。「そうだ!!、何事も肯定的に受け止める時、神は再び力を与えて下さるのだ」と一人で悦んでいる。

ケーキをレンジで焼く40分の間に、妻の愛読書「ターシャの庭」に立葵の話があったことを思い出す。

ターシャの30万坪の庭には代々伝わる、一重(ひとえ)咲きの立葵があるそう。その立葵は冒頭(ぼうとう)で書いたように同じ立葵があることに「あつめる」。

ターシャの30万坪の庭には代々伝わる、一重(ひとえ)咲きの立葵があるそう。その立葵は冒頭(ぼうとう)で書いたように同じ立葵があることに「あつめる」。

ターシャの30万坪の庭には代々伝わる、一重(ひとえ)咲きの立葵があるそう。その立葵は冒頭(ぼうとう)で書いたように同じ立葵があることに「あつめる」。

ターシャの30万坪の庭には代々伝わる、一重(ひとえ)咲きの立葵があるそう。その立葵は冒頭(ぼうとう)で書いたように同じ立葵があることに「あつめる」。

ターシャの30万坪の庭には代々伝わる、一重(ひとえ)咲きの立葵があるそう。その立葵は冒頭(ぼうとう)で書いたように同じ立葵があることに「あつめる」。

ターシャの30万坪の庭には代々伝わる、一重(ひとえ)咲きの立葵があるそう。その立葵は冒頭(ぼうとう)で書いたように同じ立葵があることに「あつめる」。

ターシャの30万坪の庭には代々伝わる、一重(ひとえ)咲きの立葵があるそう。その立葵は冒頭(ぼうとう)で書いたように同じ立葵があることに「あつめる」。



2畝を超える我が家のタチアオイ